

機関番号：35306

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530695

研究課題名（和文） ジャンル・アプローチを基礎とした授業方法の実証的研究

研究課題名（英文） A Study of Teaching Method based on Genre Approach

研究代表者

中野 和光 (NAKANO KAZUMITSU)

美作大学・生活科学部・教授

研究者番号：10033573

研究成果の概要（和文）：

本研究は、ジャンル・アプローチを基礎として、教室における各教科における子どもの作文をジャンルでとらえ、広い社会における言語活動と関連づけ、方向づける授業方法を開発することを目的としている。この目的を達成するために、最初に、ジャンル・アプローチの理論と方法の検討を行い、現代の作文指導法、伝統的作文指導法、教科を横断した作文指導法、との関連におけるジャンル・アプローチの特質を明らかにした。実際のジャンル作文の指導においては、読んだジャンルとの関連が深いことから、読むことと書くことの関連の理論的検討を行うとともに、教科書の文章のジャンルの分析を行った。その上で、国語科と理科においてジャンル・アプローチによる実証授業を行い、その分析を行った。まだ、不完全なところはあるのだが、全教科における作文指導の理論としてのジャンル・アプローチの意味、位置づけ、指導法を実施可能などころまでは、明確にしたという意味において、研究の目的は達成したように思う。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to develop a teaching method of writing across the curriculum relating and orienting children's writing with writing in the larger society based on "Genre Approach". To attain this purpose, we examined the theory and method of genre approach at first, then, clarified the characteristics of genre approach in relation with the contemporary teaching methods of writing and the traditional teaching methods of writing and the teaching methods of writing across the curriculum.

After we examined the reading-writing connection and genres in the schoolbooks, we practiced the genre approach in Japanese language and science classes in an elementary school and analyzed the lessons. This research clarified the theory and method of genre approach as teaching method of writing across the curriculum and its significance for contemporary Japanese education so it is practicable in Japanese classrooms.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	1,300	390	1,690
平成 21 年度	900	270	1,170
平成 22 年度	1,000	300	1,300
年度			
年度			
総計	3,200	960	4,160

研究分野：教育方法学

科研費の分科・細目：社会科学・教育学

キーワード：教育学、教育方法学、授業方法、授業研究、ジャンル・アプローチ

1. 研究開始当初の背景

ジャンル・アプローチは、教室における作文を広い社会の幅広いジャンルのより承認された作文へと導く方法である。また、国語科以外の教科の作文においても応用できる作文指導法である。わが国の教育方法学の世界ではほとんど知られていなかった。

このような状況の中で、各教科の中で、子どもたちに広い社会における多様なジャンルにおける作文を書く力を育てる授業方法を開発したいと思った。

2. 研究の目的

本研究は、ジャンル・アプローチを基礎として、教室における各教科の子どもの作文をジャンルでとらえ、広い社会における言語活動と関連づけ、方向づける授業方法を開発することを目的としている。

3. 研究の方法

- (1) 最初に、ジャンル・アプローチの理論と実際の全貌を文献を用いて明らかにする。
- (2) ジャンル・アプローチがもっともとらえやすく、実践しやすいのは、作文の指導場面がある国語科である。その意味で、最初に国語科の実践と分析を行う。
- (3) 次に、理科における作文の実践と

分析を行う。

- (4) 国語科と理科の実践と分析にもとづいて、国語科、理科以外の教科について実践と分析を行う。
- (5) 実践と分析に基づいて、報告書を作成する。

4. 研究成果

平成 20 年度は、最初に、ジャンル・アプローチに関する文献を収集し、ジャンル・アプローチの理論と方法について研究発表を行った。オーストラリア・シドニー学派、特別な目的のための英語（ESP、ニューレトリック、3 つの立場の理論と方法の検討を行った。次いで、現代の作文指導法の中では、ジャンル・アプローチはどのように位置づけられているかの検討を行った。最初に、現代ディスコース理論のなかにおけるジャンル・アプローチについて検討を行い、子どもの作文能力の発達とジャンルとの関係を明らかにした。その上で、現代の作文指導法の中におけるジャンル・アプローチの検討を行い、ジャンル・アプローチは、子どもや若者を広い社会に準備させる方法として位置づけられることを明らかにした(「平成 20 年度研究成果中間報告書」所収)。広い社会における読み手を対象に文章を書くためには、文章を批判

的に読む力も求められることから、批判的リテラシーを育てるための指導法の起源としての 1970 年代西ドイツの批判的教育学の学習指導案について考察した（「美作大学・美作短期大学紀要」所収）。

平成 21 年度は、伝統的作文教授法とジャンル・アプローチの関連、各教科における作文指導におけるジャンルの位置を明確にした。伝統的作文教授法との関連については、伝統的作文教授法とシドニー学派と社会構築主義の作文教授法の対比を行い、次いで、言語能力全体の発達の中での書く能力の指導の位置づけを行った。話し言葉を基礎とするとき作文は最もよく教えられる。その書くことにおいてジャンルの知識は長期記憶の中に格納されて作文を書くときの資源となる。作文教育の目的をスキルではなく、独立した書き手、よい書き手を育てることに置くならば、ジャンル・アプローチの目的も独立した書き手、よい書き手を育てることに置くべきである。その指導の終着点は、公的な規範に合致した、公的な読み手を相手として書くことができるようになることであることを明らかにした。

各教科における作文指導におけるジャンルの位置については、教科を横断した作文指導の諸方法を検討した。それらの方法の中には、自分のためのノートをとることの指導から、直接知っている人を読み手とするレポートの指導、直接的な知人の輪の外にいる人を読み手とする指導に向かうべきであるとするもの、自分のための表現作文から、同級生に対する説明を経て、遠い他者に対する説明へと進むべきであるとするもの、インフォーマルな作文から次第にフォーマルな作文へと育てるべきであるとするもの、等があった。レベルでとらえるか、機能でとらえるか、発達段階でとらえるかの違いはあるが、エッセ

イやレポートだけではなく、より多様な形態の作文を書くように指導する、インフォーマルな作文からフォーマルな作文へと指導する、という点はそれらの方法は共通している。

ジャンル・アプローチのシドニー学派と社会構築主義(ニューレトリック派)の二つの立場があることは、ここまでの研究で明らかになったが、いずれの立場であれ、児童生徒は、読んだことのないタイプの文章は書けない。この意味で、平成 22 年度は、読むことと書くことに関する理論的検討と、教科書にはどのようなジャンルの文章が書かれているのかの検討を行った。また、国語科と理科におけるジャンル・アプローチにもとづく実証授業を行った。

1970 年代以降、米国においては、読むことと書くことは類似の過程として結合してとらえられるようになった。それを支えたのはシェーマ理論である。シェーマは、主題についての概念のネットワークとテキストの形態・組織に関する既存の知識である。シェーマ理論にもとづけば、読むことと書くことはどちらも意味を構成しようとする能動的な過程である。読むことと書くことの結合のもっとも直接的なものは、モデル文を用いた作文指導である。モデル文を用いた作文指導は、モデル文の特徴が過度に強調されることによって、考えが発展しなくなることが指摘されてきたが、シェーマ理論においては、テキストの形態・組織の特徴を教えることの意義を認めている。

教科書の分析は、平成 23 年度から使用される小学校の全教科の教科書について、手続き文、記述文、報告文、説明文、議論文、物語文、詩歌、手紙文の 8 つのジャンルで、分析を行った。その結果、見出したことは、①どの出版社の教科書も、現行教科書と比べて、「書く」活動そのものが増えている、②「読

む」活動との関連における「書く」活動が増えている、③ジャンルの数が増えている、④記述文を書かせて、その上で、説明文、報告文、意見文を書くことが多く、物語文を書くのは相対的に少ない、⑤「書く」ことについての説明、モデル文が増えている、である。全体として、平成 23 年度から使用される教科書は、ジャンル・アプローチにシフトしている。

「全体に関する考察」においては、全教科におけるジャンルの明示的教授の必要性、ペテルセンの長期的目標は、ジャンル・アプローチにおいては、社会的に承認されたジャンルの文章を書くこと、短期的目標は、認知的ジャンルの文章を書くこととしてとらえられ、実際の指導においては、両者は混ぜ合わされ、結合されながら、指導される必要があること、ジャンル作文は、目的、読み手、文脈を用意することが必要なことから、何らかの集団過程を組織化することが有効であること、等について述べている。

また、国語科と理科におけるジャンル・アプローチの実証授業の分析を行った。

まだ不完全なところはあるのだが、ジャンル・アプローチの意味、位置づけ、指導法を、実施可能なところまでは、明確にしたという意味において、研究の目的は達成したように思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ①「ジャンル・アプローチを基礎とした授業方法の実証的研究」(研究成果報告書)(研究代表者：中野和光)、平成 23 年 3 月 129 ページ
- ②中野和光「読むことと書くこととの関連から見たジャンル・アプローチ」中国四国教育学

会編『教育学研究紀要』(CD-ROM 版)、平成 22 年、第 56 巻、139-144 ページ

③中野和光・渡邊真依子・樋口裕介・竹内誠人・田中紀子「『ジャンル・アプローチ』にもとづく教科書の研究(1)」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM 版)、平成 22 年、第 56 巻、145-156 ページ

④深澤広明・吉田成章・八木秀文・熊井将太・大瀬元貴「『ジャンル・アプローチにもとづく教科書の研究(2)』中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM 版)、平成 22 年、第 56 巻、157-168 ページ

⑤「ジャンル・アプローチを基礎とした授業方法の実証的研究」(研究成果中間報告書、第 2 次)(研究代表者：中野和光)、平成 22 年 3 月、22 ページ

⑥中野和光「伝統的的作文教授法とジャンル・アプローチの関連に関する一考察」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM 版)、平成 21 年、第 55 巻、178-183 ページ

⑦中野和光「批判的リテラシーの指導方法に関する一考察」美作大学・美作大学短期大学部紀要、平成 22 年、第 55 巻、57-64 ページ

⑧「ジャンル・アプローチを基礎とした授業方法の実証的研究」(研究成果中間報告書)(研究代表者：中野和光)、平成 21 年 3 月、31 ページ

⑨中野和光「ジャンル・アプローチの理論と方法に関する一考察」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM 版)、平成 21 年、第 54 巻、179-184 ページ

⑩中野和光「1970 年代西ドイツの批判的教育学(kritische Erziehungswissenschaft)の学習指導案に関する一考察」美作大学・美作大学短期大学部紀要、平成 21 年、第 54 巻、39-46 ページ

[学会発表] (計 5 件)

①中野和光「読むことと書くこととの関連に

から見たジャンル・アプローチ」中国四国教育学会第 62 回大会自由研究発表、平成 22 年 11 月 21 日、於香川大学

②中野和光・渡邊真依子・樋口裕介・竹内誠人・田中紀子「『ジャンル・アプローチ』にもとづく教科書の研究(1)」中国四国教育学会第 62 回大会自由研究発表、平成 22 年 11 月 21 日、於香川大学

③深澤広明・吉田成章・八木秀文・熊井将太・大瀬元貴「『ジャンル・アプローチにもとづく教科書の研究(2)』中国四国教育学会第 62 回大会自由研究発表、平成 22 年 11 月 21 日、於香川大学

④中野和光「伝統的作文教授法とジャンル・アプローチの関連に関する一考察」中国四国教育学会第 61 回大会自由研究発表、平成 21 年 11 月 21 日、於島根大学

⑤中野和光「ジャンル・アプローチの理論と方法に関する一考察」中国四国教育学会第 60 回大会自由研究発表、平成 20 年 11 月 29 日、於愛媛大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 和光 (NAKANO KAZUMITSU)

美作大学・生活科学部・教授

研究者番号：10033573

(2) 研究分担者

深澤 広明 (FUKAZAWA HIROAKI)

広島大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号：70165249